

令和6年度（2024年度）第3回環境基本計画推進委員会 議事録

1 日 時 令和6年（2024年）9月17日（火）14時00分～15時50分

2 場 所 東海市役所 501会議室

3 出席者 山本 隆明、吉原 雅哉、榊原 弘之、近藤 高史、早川 権慈、毛利 まり子、南川 陸夫、寺島 賀子、武富 時満、田中 治幸、森岡 良枝、吉鶴 弥生、加古 博之、龍田 昭一、千頭 聡アドバイザー（委員14名、アドバイザー1名、敬称略）

環境経済部次長兼生活環境課長、リサイクル推進課課長、生活環境課ゼロカーボン戦略室長、生活環境課統括主任2名、生活環境課主任2名、リサイクル推進課主任、株式会社地域計画研究所2名

（事務局8名、業務委託業者2名）

4 欠席者 牲川 順一

5 会議の公開 公開

6 傍聴者 0名

7 内容

1 あいさつ

山本委員長よりあいさつをした。

2 報告事項

事務局より資料を用いて報告を行なった。

委員からの意見等はなし。

3 協議事項

(1) 第3章（計画のビジョン）

事務局より資料を用いて説明した。委員からの意見等は次の通り。

（委員）：「環境の柱3 気候変動」のめざす姿の2つ目について、3行の中で気候変動という言葉が2回出てくるので、整理してはどうか。2回目の気候変動の影響については、人の体への影響を意図しているようにも思うので、その趣旨で記載してはどうか。

（事務局）：短い文章で同じ言葉が2回出てくると分かりにくくなるが、今回は意味を分かりやすくするため記載した。意見を踏まえ、整理する。

(2) 第4章（環境の柱ごとの基本的な施策）

事務局より資料を用いて説明した。生物多様性に係る指標、具体的な取り組み等の

再検討については、後段に設定した部会での検討を求めた。

委員からの意見等は次の通り。

（委員）：10ページの市民・地域・団体の具体的な取り組み例に「外来種を捨てない」との記載があるが、外来種はもちろんのことペットなどの生物も対象とした方がよいのではないかと。次に、12ページの市民・地域・団体の具体的な取り組み例の「地元の農産物の購入・消費」に関して、事業者の取り組み例の「環境保全型農業の実施」について、市民によるそれらの農作物の購入・消費が進むことで事業者が取り組みを推進することができるため、市民がそれら農産物の購入・消費をすることを市民の具体的な取り組み例に入れるとよいのではないかと。また、地元農産物と環境保全型農業による農産物をまとめて記載してもよいとも考える。

（事務局）：1点目の外来種については修正する。2点目の環境保全型農業による農産物の購入・消費については、同様の内容が他にも多数あるが、全てを複数の主体部分に記載すると膨大な文章になってしまうため、できるだけウェイトの大きい主体に書くことで全体を整理していることから、計画書全体のバランスを踏まえて修正するか検討する。

(3) 第5章（生物多様性地域戦略）

事務局より、次第の順番を変更し「生物多様性地域戦略」「計画の推進方法」の順に説明することを提案し了承された。

事務局より資料を用いて説明した。委員からの意見等は次の通り。

（委員）：事前送付の資料から修正があったとのことだが、大幅な修正があったのか。

（事務局）：文言の軽微な修正であるため、大勢に影響はない。

(4) 第6章（計画の推進方法）

事務局より資料を用いて説明した。

委員等からの意見等はなく、詳細は事務局に一任とするもの。

(5) 部会に分かれての検討前のアドバイザー意見

生物多様性に係る指標、具体的な取り組み等の再検討及び計画の推進方法について、部会別で議論を行なう前に千頭アドバイザーから留意事項として次のとおり説明した。

（千頭アドバイザー）：資料4-2について、1頁上段の説明文では、「市民、事業者、地域・団体、市」と記載があるが、中段の囲み内では「市民、事業者・団体、市」とある。また、4章では「市民・地域・団体、事業者、市」としてあり、環境行動の指標では「市とNPO、事業者等」としてあり、NPOという言葉が初めて出てくる。「団体」という言葉は市民活動団体すなわち広い意味でのNPOを指すこ

とが多いが、計画書における「団体」が何を指しているのか分かりにくいことが、共通事項として非常に気になった。

資料５－１の「環境の柱：気候変動」について、他の柱では「保全」や「共生」などの言葉があるのに対し、後ろに言葉がないため気候変動をどうしていきたいか分かりにくく感じる。

循環型社会の指標である「市民一人１日あたりのごみの排出量」について、家庭系・事業系（可燃物＋不燃物）の西知多クリーンセンターへの総搬入量と、資源回収量をあわせたものであり、資源回収量が減少すれば可燃ごみが変わらなくても指標は減少し、可燃ごみを資源ごみにしても総量が変わらなければ減少しない指標となっている。目指している循環型社会の指標として十分ではないと考えられるため、資源回収量を除いたごみ量にしてそれを減少させていくか、資源量のみにしてそれを増やしていくという指標にした方が、環境基本計画の指標としてはよいのではないか。

生物多様性について、外来生物種に対する取り組みがほとんど書かれていない。国が指定している侵略的外来種もあるし、その一步手前の外来種もある。東海市内には海外からのコンテナもあり、対策が必要だと思うが、今の記述では少し弱いのではないかと感じる。

(6) 部会に分かれての検討結果

生物多様性に係る指標、具体的な取り組み等の再検討及び計画の推進方法について部会に分かれて議論し、その内容について全体会で各部会長より概要を報告した。

ア 社会環境部会（寺島部会長）

生物多様性にかかる指標について、候補１「市内で生物多様性の保全・再生に取り組んでいる地点数」がよいと思われる。この指標については、増やしていくことが難しいという点や、市民による活動内容をどのように把握していけるかという点も課題である。候補３「生物調査・観察会の実施数」については、その指標だけでは弱いのではないかという意見が出された。

計画の推進方法については、PDCAの「Check」と「Do」について、誰がどうやって進めているのか捉えにくい、特に市民側の活動を把握できないという点が課題と捉えている。

イ 生活環境部会（吉原部会長）

資料４－２の「環境ビジョンを実現するための環境の柱」の図について、環境の柱５の環境行動が、環境の柱１～４のベースになっているということだと思うが、

デザインのわかりづらいという意見があった。

生物多様性にかかる指標について、候補3「生物調査・観察会の実施数」が最適な指標か疑問であり、観察種数や外来種の確保数にした方が望ましいのではないかという意見があった。また、観察会の実施数は、環境行動の指標に近いのではないかという意見があった。

候補1「市内で生物多様性の保全・再生に取り組んでいる地点数」が8地点とあり、増やすことも大切であるが、まずは東海市の生物多様性の現状を客観的に把握し、現状と立ち位置をきちんと見つめ直すことが必要ではないかという意見があった。また、生物多様性の取り組みについて、現在実施している花壇コンクールに、ビオトープ部門を新設できると、市民の関心も深まるのではないかという意見があった。計画の推進方法について、開催スケジュールなどが令和2年以降改善されており、基本的にはそのスキームで良いが、それでも年次報告書作成部分に議論の比重が大きいため、次年度の取り組み見直しなどの検討をきちんと行うためには、会議の回数をもう少し増やしてもよいのではないかという意見もあった。

ウ 廃棄物・リサイクル部会（榊原部会長）

生物多様性にかかる指標について、候補3の「生物調査・観察会の実施数」がよいと思うが、生物調査・観察会の実施数だけでは生物多様性の答えになっていない可能性がある。例えば東海市の代表的な50種程度を抽出して、調査・観察会で確認できた実績を指標化してはどうかという意見があった。

計画の推進方法について、PDCAの「Check」は、令和5年度の実績をもとに令和7年度の活動方針を決めている状況であり、令和6年度の状況や実績を反映できていない可能性がある。予算確保のスケジュールがあるのでやむを得ないが、予算枠が決まった後のタイミングで、実施していく内容を調整していくようなアクションがあるとよい。

環境の柱3の「気候変動」の文言は「気候変動対策」や「気候変動対応」にしてはどうかという意見が出された。

循環型社会の指標である「市民一人1日あたりのごみの排出量」については、対応可能とのことだったため、可燃物・不燃物と資源回収量を分けて、2つの指標にしてはどうかという意見があった。

エ 事務局意見

意見を精査し、庁内会議での議論も踏まえて素案の修正を行い、10月11日の環境審議会や11月のパブリックコメントにつなげていきたい。

(7) 千頭アドバイザーからの全体を通した意見

資料6－2にも記載があるが、推進主体それぞれの取り組みが重要であり、行政以外も含めた各主体の取り組み状況について、この推進委員会の場で情報共有や反映がされていくことが必要であり、そうでなければ本当の意味での進行管理にならないと思う。

「団体」の記載について、今のままでは東海市にはNPOは必要ないというように見えてしまうので、市でも議論いただきたい。

推進体制について、現在は、推進委員会と審議会とのつながりがほとんどない。審議会には推進委員会での議論が報告されていると思うが、現在は逆がない。一方、この会議はあくまで推進委員会であり、評価をする組織ではなく、各主体が何ができるか考え、自ら行動し推進していくという場である。本当は、評価する組織・立場と、推進する組織・立場とを整理できるとよい。

4 その他

事務局より、今後のスケジュールについて説明を行った。